

題名：推しから学んだこと

静岡県 牧之原市菊川市学校組合立牧之原中学校 三年 和田 弥樹

みなさんには好きなキャラクターや人物、いわゆる「推し」がいますか。私は KPOP のアイドルが好きで、推しています。ですが、初めは「男がアイドルを好きになって推すのは恥ずかしい」という考えを持っていました。 そんな考えのもと、友達が VTuber というネット上のバーチャルアイドルに夢中になっていることをバカにしてしまったことがありました。他にも、別の友達が「ポケモンが好きだ」と言ったときに、中学三年生にもなってポケモンが好きなのは恥ずかしいと心の中で思ってしまったこともありました。今、思うと私は本当に申し訳ないことをしてしまったと、とても後悔しています。

今はもう「男がアイドルも好きになって推すことは恥ずかしい」という考えは持っていないです。何かを好きでいることに年齢や性別なんて関係ないと思っているからです。そう思えるようになったのは、私自身が心から応援したいと思える「推し」に出会えたからです。

この作文の最初にも書いたように、私は KPOP のアイドルを推しています。そのきっかけになったのは妹や母から勧められたことです。はじめのうちは何が良いのかわかりませんでした。家で妹と母が KPOP アイドルの話をしていたり、KPOP アイドルの動画を見ていたりすることが多く、段々興味があいてきました。その中で、一人のアイドルが私は気になりました。そのアイドルはデビューしたばかりのころは歌があまり上手くありませんでしたが、新しい曲が出るたびにすごく上手になっていきました。動画サイトでそのアイドルが歌やダンスの練習を一生懸命やっている動画も見たことがあります。華やかなステージの上に立つまで、たくさんの努力をしていることを知りました。そして、そのアイドルががんばっている姿にひかれていきました。そして私はその話をクラスの友達と共有したいと思い、私が推しているアイドルの話をしてみました。女子はアイドルを好きな人が多く、共感してくれましたが、男子とはあまり話が盛り上がりませんでした。そのうえ「アイドルを推すってことはオタクってことじゃん。」といったようなことまで言われてしまいました。その言葉に少し傷ついた反面、その友達が悪気なくそのような言葉を言うてしまう気持ちもわかりました。かつての私がそうだったからです。これらの経験から私は、友達が好きだと言ったものが自分にとって興味のないものだったとしても、否定するのではなく、その良さを教えてもら

ことを心掛けるようにしています。そうすることで、その友達が好きなものについて知れるし、友達のことももっと知ることができると思うからです。そして何より、これまで自分が知らなかったことや、興味を持たなかったものについて教えてもらうことは、自分の世界を広げることだと感じています。

私たち牧之原中学校の三年生は九月に修学旅行に行きます。二日目に京都で研修を行うか大阪万博の見学とするか学年で話し合っていて決めています。どちらを選ぶか決めるにあたって私は大阪万博について調べてみました。大阪万博の理念には「他者への共感を育み、また多様な文化や考えを尊重しあうことによって、ともにこの世界を生きていく。」と書いてありました。この文章を読んで、これは私が「推し」を通じたクラスの友達との関わりの中で感じたことをそのまま文章にしたようだと思いました。これから私が高校生になったり大人になったりする中で、自分とは違う様々な考えを持つ人にも出会うと思います。そのときは否定から入るのではなく、なぜそのように考えるのかをいろいろな視点から見つめ、自分の考えを広げていきたいです。